



人が聴くとき神は語る
人が従うとき神は働く

— フランク・ブックマン —

「MRAの原点を忘れるな」と常に語った中畑さん 1971年スイスコーにて

七月六日、中野の宝仙寺で、アドメディアセンター社葬による故中畑三郎氏（MRA協会常任理事）の葬儀と告別式がおこなわれた。

祭壇の中央に菊花と蘭でかこまれたありし日の中畑さんの写真が飾られ、その前に生前の功績をたたえる叙勲の勳記、関係各社代表から贈られた生花など祭堂一杯に溢れるほどだった。木村運輸大臣を初め、生前関係の深かった人びとの追悼の言葉が次々とのべられたが、中畑さんがその家族、友人、職場に与えた影響の深さ、また国際人としてのその姿が浮彫りされ、いまさら深い惜別の思いをあらたにさせられた。

中畑三郎君を偲ぶ

瀧山 養
(国有鉄道技師長)

中畑君は六月二十四日、国鉄OBの会に出席して、その帰途有楽町駅で倒れ、そのまゝ、不帰の客となられた。大病をわずらわれた、め、お体は不自由になられたが、OBの会合や、MRAの会合にお目にかかり、最近はお元氣に見受けられておっただけに、驚いた次第である。余りの突然の御不幸に、今、ご夫人や御家族の悲しみに対して、お慰めの言葉が無い。

中畑君は昭和十三年、当時の鉄道省に入り主に総務系統を歩み、二十五年、職員局労働課長に抜擢され、公労法施行の初期の労働問題に取り組まれた。課長時代、当時の局長の片岡さんの勧めで、スイスコーのMRA大会に出席された。その後、青函船舶鉄道管理局長を経て、三十二年広島鉄道管理局長に就任された。当時広島は全国でも労働紛争の最も激しい管理局で、私が悪戦苦闘した後始末をお願いすることになった。ついで志免鉱業所長となって、当時、合理化問題の焦点であった 鉱業所の閉山と職員の配置転換という難事業を見事やってのけられた。最後に世紀の大事業たる新幹線の建設を担当した新幹線総局の総務局長として、十河総裁の責任問題にまで発展した赤字と開業準備の難局に直面し、大変な苦勞をして、国鉄を去られたのである。

中畑君は、常に御苦労の多いポストに就き難問題の処理に当ったが、持ち味の人間性を生かして、地道に片付けていかれた。国鉄のエリートの中で、率直に言わして戴ければ、栄達されたとは言えないであろうが、国鉄の歴史に残る偉業の縁の下の力持ちとして立派な功績を果されたとは私は思っている。

片岡さんの薫陶を受けて、MRA運動に打ち込み、奥さまと御一緒に家族ぐるみ、活躍された。スイスのコーには三度も訪れ、ジバの会にも、また国際MRAの会合にも、欠かさず出席され、黙々と献身されている姿が目に浮かぶ。本当に惜しい方を失ったものである。

お別れの言葉

加藤 シズエ

(国際MRA日本協会副会長)

国際MRA日本協会会長土光敏夫氏に代り副会長加藤シズエ、謹んで故中畑三郎様にお別れの言葉を申し上げます。

中畑様は御生涯の前半を国鉄マンとして労働課長を初め新幹線総務局長ほか数々の重要ポストにつかれて貢献されたと承わっておりますが、特に国鉄元総裁十河信二先生の御信頼厚く、かの福岡県志免炭礦閉山当時は鉱業所々長としての大役を立派に果されました事は広く人々に知られ多大の感銘を与えられたのでございました。志免炭礦は国鉄の炭坑として長い歴史をもち職員達は山を愛し石炭を掘るにも国鉄職員としての名誉と誇りをもって仕事に打込んでいと常々申しておりましたのを私は現地の労働組合を訪ねた折きかされておりました。

しかし他方当時の十河総裁は国鉄経営の上からどうしてもこの山を手ばなさなくてはならない事情を訴えておられたのを私は国会の関係委員会の席で承わり知っておりました。このようなむずかしい情勢の下では労使間に一騒動起るのではないかと人々は懸念致しておりましたが、中畑様は鉱業所々長として赴任せられるや単身閉山反対運動も上る労働組合本部に行かれ就任の挨拶をされ問題解決の話し合いを始められました。緊迫した空気の中に単身乗込んでゆくというような事は勇気を要する事であり、あなたのお心に秘められた信念に基く行為であったと存じます。



中畑さん(左端)はご家族をあげてMRAに献身され、各国の人びととも交流を深めました。右端が夫人の婦幹さん。1971年スイスのコーにて。

中畑様は昭和35年スイスのコーにおけるMRA国際大会に日本代表として出席され、その後も数回、ことに一昨年は奥様お嬢様御同伴でヨーロッパ各国から集まった代表達との交流を深められました。

中畑様、あなたのMRA運動への御献身とその精神を身をもって実践された事は、さきの志免炭坑に於ける労使間の問題解決に当っても、「誰れが正しいか」ではなく、「何が正しいか」のMRA方式をもって諄々と説かれましたから、その結果は炭坑は平穩裡に閉じられ、そこに働く人々の心は開かれて融和が生まれたという奇跡にも似た結末を見せて下さったのでした。

国際MRA日本協会は去る六月十六日創立一周年の総会をもちました。あなたが、あなたはその席にはもうお姿が見えなかつた。長い間この運動のある所にはいつもあなたの大黒柱のような強い存在があり、一同から敬愛されておられました。それなのに突如として逝ってしまったとはあまりにも大きな驚きであり、悲しみでございます。

中畑様、あなたは限りない慈しみのお心を奥様お嬢様ご遺族皆様の胸深く残して永久の旅路に立たれましたが、その御生涯は、神の眼に、私の心になつた悔いなきものであつたと信じております。いまあなたの御功績に心からなる感謝を捧げつつ御冥福を祈るものでございます。

中畑様、お心安らかにお眠り下さいませ。

加藤シズエ

中畑さんをしのんで

柳沢 鍊造

(全国造船重機労働組合
連合会委員長)

中畑さんが国鉄におられた頃、国鉄の経営する北九州の志免炭坑が閉山されるので、労使が激突し、ストが続いていました。泥沼のような状態で解決のメドはありませんでした。

中畑さんが志免鉱業所々長に任命され、赴任して最初にやられたことは、労働組合の委員長に会いに行かれたことです。周囲の人々は、身の危険があつて保障

できないから「そんなことはしないでほしい」と止めたそうです。だが、中畑さんは組合本部へ行かれ委員長に会われたのです。

「このような状態で事故が起こつたら大変なことになる。神社と一緒に行って、一従業員的安全祈願をやらうではないか」と誘われました。従業員の安全祈願をやるというのですから委員長も反対する理由はありません。それではということで、二人揃つて神社に参拝され、一緒にかしわ手を打つて祈られたのです。その時、神は語りかけたのだと思います。なぜなら、それがきっかけで、どうにもならなかつた志免炭坑の大争議が解決に向かつたからです。

中畑さんは「人が聴くとき神は語る。それに従つうとき神は働く」という言葉を残して天寿をまつうされました。そうして、「この言葉だけは忘れるな、MRAの原点だから」と言つておられるように思います。

国際MRA日本協会

—創立一周年定期総会—



六月二十六日午後、から海運ビル(東京都千代田区平河町)三階会議室で創立一周年定期総会が開かれた。

都内はもとより、関西、九州、愛知など近県各地から多数の人員が出席した。

議長に加藤シヅエ氏が選出され、議事の審議に先立って中畑三郎常任理事の逝去を悼んで一同起立して御冥福を祈った。

●事業報告●

佐藤魁常任理事より次のような報告がなされた。「本協会は創立一周年を迎えたが、この間スイス・コーに開かれたMRA世界大会、台北でのMRAアジア大会また豪州MRA大会(キヤンベラ)等に代表を派遣し、そのあと、帰国報告会を開催した。また、青年講座の開催、並びに欧州、アジア、北米へ青年達を派遣することもできた。今年二月にはスタン・シユパード夫妻を迎え、わが国各界の人物との交流も行われた。MRAニュースの発行にもまた力を注いだ。

●五十一年度事業計画

別掲の海外の動きが相馬雪香氏より報告がなされたあと、本郷富士子氏より次のような提案がなされ、承認された。

「ブックマン博士の一生が映画化されたのでぜひ購入したい

と思います。今夏、スイスのコーを訪問した際に入手し今後の会合で公開していきたいと思えます。

また出版事業として、フランク・ブックマン博士の演説集「世界を再造する」の中から抜粋したものをまとめて出版し、広く利用していただきたいと考えています。

その他の事業計画については、昨年に引続いて実施したいと思えます。

映画ハリケーンの上映のあと、柳沢理事長は次のように挨拶した。

「映画ハリケーンを見ていて、第一に感じましたことは、あれはアフリカに起きたことですが、アジアであれ、南米であれ、近くはすぐ隣りの朝鮮半島ですら、あのような状態が起これないとは言えないのではないかと、日本の国自体は大丈夫なのか、と考えさせられました。もう一つは『人が聴くとき神は語り、人が従うとき神は働く』ということがこの映画のバックボーンになっています。

世の中は連日、問題ばかり起きています。問題があるからと言って私たちが騒いだり、それを悪いと批判し指摘しているだけであれば、それらの問題を起

こしていい人達と変りはありません。その問題をどうしたら解決することが出来るかという回答の鍵を持ったときに、はじめ、私たちはこの世の中をよくすることが出来ます。それはMRAで私たちが体験し、ハリケーンの映画に示された精神が根本になっていきます。

ブックマン博士がチームを連れてフィリピンへ行かれたとき、マグサイサイ大統領に会われました。マグサイサイ大統領は博士に「人々は私のところに問題ばかり持つてくる。しかし、あなたは回答を持つてきてくださった」と言われました。私も人々に回答を与える人間になりたいと思っています。

私の欠点と申しましょうか、私の一番仕末におえない点はすぐ人を指さすことです。ついこの間も「あなたはすぐ人のことを言うけれども、人を指さすと三本は自分に向いていますよ」と家内に言われました。人の悪口、批判をやめる決心をしました。

今日の創立一周年の総会を期して「人が聴くとき神は語ってくれる」を生活の指針にしたいと思えます。神は誰にでもいかに語っているのだけれども、聴いているか、聴いていないかだけの違いであって、「みんな

で聴いてみよう、聴いたらやってみようではないか」それを今日の総会からのスタートにしようではありませんか。そして、折角、これまで築いた日本を、ともにより良くしたいと思えます。

なお、当日次のような人びとによるメッセージがのべられた。

住友美子さん

「MRAで最も大切なのは温かい心です。その温かい心が泉のように流れ出るのは心が無私だからです。その無私の心を、ブックマン博士が中国の方々につくしておられることによつて学びました。私たちは誰かを親切にするとか何を要求しますが、ブックマン博士の思いやりは何も求めないで無条件です。相手を信じ、その人が最高の姿になれるように心をつくされるのです。それが、人々の心に残り伝えられて、台北でも青年達の心にそれが今も流れているのです。」

山内俊平氏

関西のチームの皆さんと共にこれからも頑張ります。私の教えている大学の学生達にMRAチームが出来るよう動きかけます」

藤森英和氏

「私は二年間、MRAの訓練をうけて昨年の十二月二十八日に帰ってきました。初め私はイ

ンドのパンチガニーへ行きまし

た。その当時、私はMRAとい

う言葉のみで、内容をよく知り

ませんでした。そこにおられた

大村さんに、英語もまだ話せない

私を、手とり足とりして導

いていただきました。そのこと

を通じて、私はまわりの人に温

かい心でつくすことを学びまし

た。それから、「アジアの歌ご

え」の一行に加わったのです。

その中において、日本に帰ったら

あれもこれもやろう、父も変え

てしまおう、と意気こんでいま

した。自分がMRAの先生にな

ったつもりでいたし、他人を見

る目も神のようであったかも知

れません。そのようなごうま

な気持を持っていたためか、な

かなか帰国の機会を得ることが

できませんでした。

或る時、肩を張るのはよそう、

私が日頃できることをMRAで

学んだ温かい気持で地味にやつ

ていこう。そうすれば自分もく

ずれないし、と、こう思ったと

き帰国できました。

正月の年頭に決心と言えは

こがましいのですが、「いやなこ

とを率先してやること」を心に

誓いました。気付いたこと、何

でもないことに心をくばって日

々を大切に生きる。そうすれば、

やってきました。」

狩野安子さん

「私は青年時代MRAでアメ

リカやヨーロッパを廻って、私

の人生に大きくプラスしていま

す。今日、私がこうしてあるこ

ともMRAのお蔭です。

現在、海外旅行ブームで若い

人達がたくさん国外へ出かけて

いますが、多額の費用を使いな

がら何も学んで帰りません。む

しろ、悪いことばかり身につけ

て帰って来ています。若い人達

に、私のような素晴らしい経験

をさせたい、何とかしてあげた

いと、いらいらしていました。

今回、皆さんのお世話をしなが

らコーへ行けることをとてもよ

ろこんでいます。きつと本人は

もとより日本のためになると思

います。

われわれ一人一人が神がもつ

ている最高計画を見つけ出さな

ければいけない。われわれの弱

点は、われわれ自身が責任をも

つて考えなければならぬこと

を、すべて政治家にまかせ切っ

て、しかもこれを民主主義と呼

んでいることである。

われわれ一人一人が道徳の雰

囲気をつくることに努力しな

つたら、一体、われわれの民主

主義はどうなってしまうのだろ

う。多くの人がとは自分の問題

に忙殺されていて、国のことを

考えるのを忘れてしまっている

わたくしたちの使命は神の導き

と従うことである。

語 録

★ 海外の動き ★

インドではラジモハン・ガ
ンジー氏等がMRAアジアセ
ンターであるパンチガ
ニーで青年達の訓練を
おこなっています。英
国では、十八世紀の中
頃、ウエスレー兄弟が
中心とした精神革命が
おこりましたが、最近
MRAチームは、この
聖者の一生を劇にして各地を
廻り、ロンドンのウエストミ
ンスター劇場で上演され大好
評でした。

今年の十月、カンタベリー
の大司教とヨークの大司教の
連名で「イギリス国民に訴え
る」という文書が出され、大
きな反響を呼びました。それ
は二万七千人の人々から手紙
が来ています。

その手紙をまとめた「拝啓、
大司教殿」という本が近く出版
されることになっています。

英国はいま「パンだけに生き
ようとするのか、それとも真に
正しいことのために生きよう
とするのか」という選択を求め
られている」という選択を迫ら
れています。ですから、ロンド
ン・タイムズの社説にも「英国
社会は正直を要求する社会なの
か、或いは、自分の都合のため
には嘘にも甘んじる社会なのか」と警告しています。

カナダでは日本の青年をふく
む「アジアの歌ごえ」の一部四
〇名の青年達が、インディアン
酋長達に率いられて少数民族の
問題に大きな回答を与えようと
活躍しています。

この一団は続いてアメリカに
も招待されて行くことになっ
ています。

米国でもボストンやリッチ
モンドなどでMRA集會がお
こなわれています。アメリカ
建国二百周年祭にちなんで、建
国の精神に立ち返るべきだ
という動きも活潑になっていま
す。

オーストラリアのチームか
ら連絡があり、それには同
国の首相が訪日されたとき、
大使館での歓迎会には加藤シ
ヅエ副会長が出席されたこと。
また、首相秘書と 杉田さん、
本郷さん、私の三人が「日豪
関係を精神的基盤で築くこと」
で話しあったことを評価して
います。(相馬雪香)

お知らせ

●世紀のベストセラーと
して好評を博したピータ
ー・ハーワード著の「フラン
ク・ブックマンの秘訣」
が大阪地区メンバーの協
力で復写して頒布することにな
りました。ご希望の方は事務局
宛お申込み下さい。

一部一〇〇〇円(但し送料別)
部数は五〇〇部限りです。

なお、フランク・ブックマン

博士の講演集も現在、新しく出
版のすすめられています。

どうぞご期待下さい。

MRA全国大会

●今夏スイスのコーのMRA世
界大会にわが国から三つのグル
ープが出席しましたが、その方
々の報告並びに、新しいMRA
映画「フランク・ブックマンの
生涯」を上映します。

日時 十月二日(土)

午後一時より午後四時

会場 東条会館(半蔵門)